

人権シリーズ

【あいさつという宝】

(442)

「こんにちは。」

退職後、健康維持にと散歩をしていた時の事、偶然集団下校の小学生たちと出会った。すれ違う時に、元気にはつらつとした声で挨拶をしてくれ、仲間たちと楽しそうに会話をしながら通り過ぎていった。子どもたちの姿に、いつまでも心に余韻が残る、爽やかな清らかな気持ちになった。日常生活の中で、当たり前と思っていたが、当たり前でない魅力ある挨拶を与えてくれた子どもたちに感謝でいっぱいです。子どもたちのようにいかずとも、相手が笑顔になるような挨拶を、今後の出会いに生かしていきたいと思った。

この出来事で、挨拶について今一度、調べてみた。

一、お互いの存在を認め合い、人権尊重の第一歩。

一、お互いの命や尊厳を認め合う、存在の認証。

一、相手の変化に気付き心のサインを知ることができ

る。

一、安心できる地域社会を作り、孤立の防止になる。
昨今、人との交流が少なくなり、些細な事で相手を罵倒したり、直接関係のない損害を受ける事件が起きているが、普段からお互いに声をかけ合う存在が出来ていたならば、事件は回避出来たのではないかと思うと心が痛みます。

村の人権情報カレンダー6月に

「あいさつで、笑顔の花を 村じゅうに」と。

皆さんが、日常の挨拶で会話を弾ませ、笑顔の輪を広げ自他共に幸福感を、時には勇気を、そして心の豊かさが村じゅうに継がり、皆が安心できる地域を作りあげられたらと願っています。

人権擁護委員 吉野 鈴美

アートの世界

きれいなちようちよが飛んできた。
「私を映して」
それに私は快く「はい。はい。」と答えた。
背景の色を考えながらシャツターを



「ちようちよ」

写真会 栗島 光政さん (御堂)

REPORT

地域おこし協力隊通信 VOL.1

福島 千晶 隊員

着任してから早5か月、現在は東秩父村の新たな特産品づくりに向け、さまざまな種類の唐辛子を栽培し、加工品の研究・試作を行っています。また、直売所などで販売できる野菜づくりにも挑戦中です。農業はまだまだ勉強中ですが、地域の皆さんから多くのことを教えていただき、日々たくさんの学びと支えをいただいています。その感謝を胸に、村の魅力を形に出来るよう、一歩ずつ取り組んでいます。

写真左：ハバネロビッグレッド / 右：ハラペーニョ

